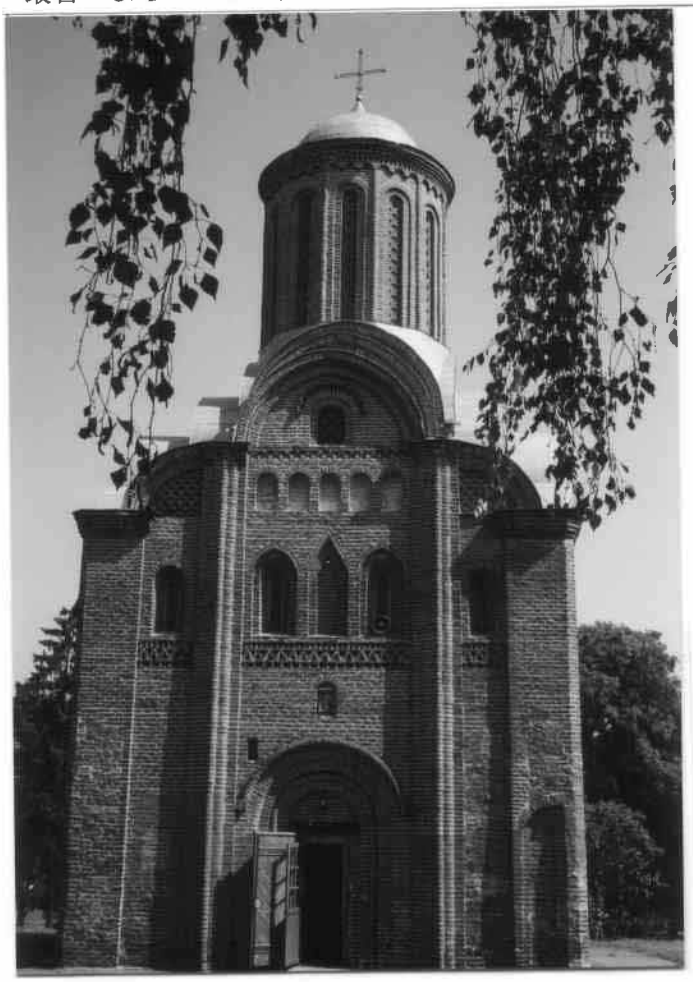
チェルニヒヴ（チェルニゴフ）

キーフ（キエフ）の北約 150 km にある、デスナ川に面するまち。キエフ・ルーシ最古のまちのひとつ。



ピャトニツカ（パラスケヴァ・ピャトニツァ）教会

12 世紀末～13 世紀初頭の建造。パラスケヴァ・ピャトニツァは、中世ロシアにおいて商業の守護聖者として崇拝された。チェルニヒヴでも同様の信仰が存在したようである。

チェルニヒヴ歴史博物館

歴史博物館、スパシコ・プレオブラジェンシキー大聖堂、ボリソフリブシキー大聖堂はチェルニヒヴのジチネツ（デチネツ）とよばれる区画内にある。ジチネツは 10 世紀中頃建造されたチェルニヒヴの城塞で、「ヴァル」とも呼ばれる。

スパシコ・プレオブラジェンシキー（救世主変容）大聖堂

ムスチスラフ・ウラジーミロヴィチ公（チェルニゴフ公在位 1024～36 年）が建造した教会。文献史料での初出は1036年。

ボリソフリブシキー（ボリス・グレブ）大聖堂

1120 年代に建造された。柱頭に独特のモチーフが刻まれている。

チョールナ・モヒラ（チョールナヤ・モギラ）

ジチネツのすぐ外側に位置する、10 世紀後半の墳丘墓。高さ約 11 m、土台の直径約 40 m。

写真中央は、墳丘墓の頂に立てられた、19 世紀後半の Д・Я・サモクヴァソフによる発掘を記念する石碑。写真右は環バルト海研究会のメンバー、写真左はチェルニヒヴのガイド役を務めていただいた現地の考古学者の方々とオレクシイ博士。

ボルジヌィ丘にある墳丘墓「グリビシチェ」

9 世紀末～10 世紀初頭の墳丘墓。ボルジヌィ丘には、このほかにも、10～12 世紀の墳丘墓が多数残っている。

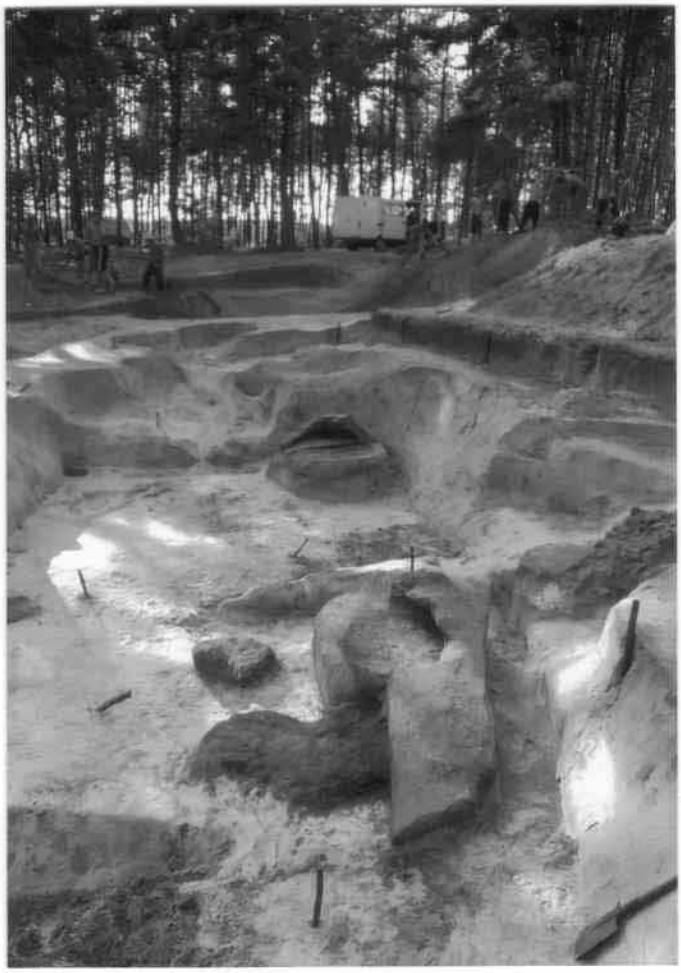
写真手前右は、ポドル考古学センターの考古学者で、シェストヴィツァ発掘に直接かかわる、オレクシイ博士夫人のナターリヤさん。

シェストヴィツァ

シェストヴィツァには、9 世紀末から 10 世紀のあいだ、「ルーシ」の人々の集落があった。

草地から望むシェストヴィツァの「ゴロジシチェ」

「ゴロジシチェ」は、集落の先端に当る約 1 ha の区画。



発掘現場

異なる文化層（8、10、12 世紀）から 3 つの炉が発見された。

シェストヴィツァの出土品

発掘隊長ヴォロジミル・コワレンコ博士（左端）

デスナ川

キーフ（キエフ）

ポディル

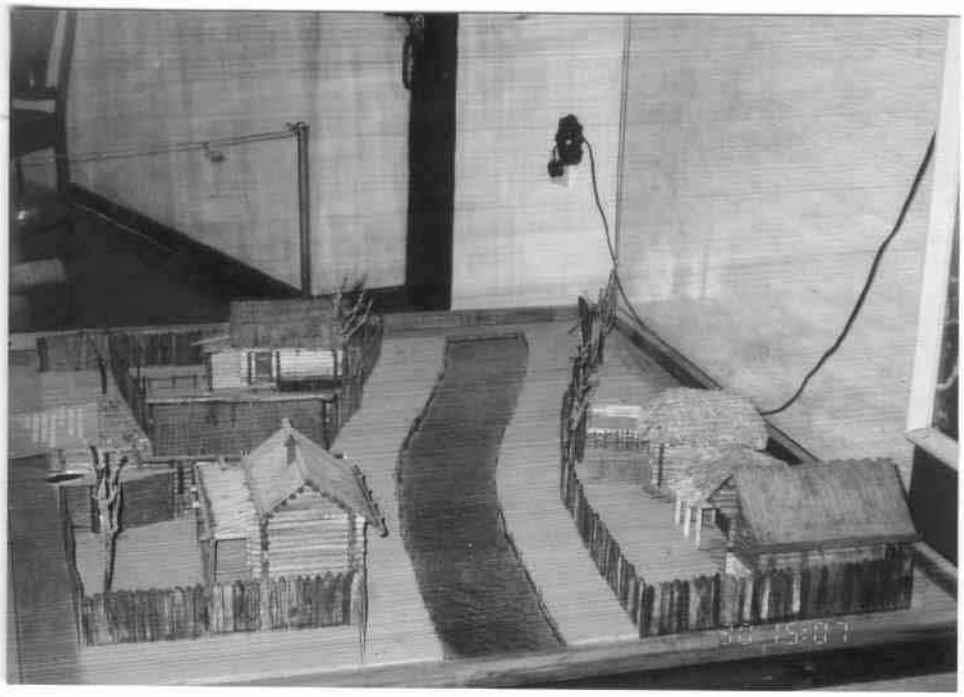
キーフの丘とポチャイナ川（ドニプロ川支流）のあいだにある低地。10 世紀以降、古キエフの商工業地区を形成した。

ポディルからスタロキーフシカ丘を望む

丘の上に見えるのはアンドリーフシカ（アンドレイ）教会。

発掘現場 1

発掘現場 2



ポディルの住居の復元

キエフ・ルーシ期には、ポディル内を流れる小川に沿って、屋敷が並んでいた（聖ソフィア内にある博物館の展示）。

古キエフのジオラマのポディル部分

中央の広場はかつて市場（トルジシチェ）。左上がドニプロ川。右上が古キエフの行政中心であったスタロキーフシカ丘（ウクライナ歴史博物館の展示）。

ポディル発掘調査隊隊長ミハイロ・サハイダク博士（右）
　ポディル考古学センターにて。

キーフ：ソフィア大聖堂

ソフィア大聖堂全景
　ソフィア大聖堂は、ヤロスラフ賢公（キエフ公在位 1019～54 年）によって、1030 年代後半～40 年代前半にかけて建設された。現在の建物は 17 世紀末～18 世紀初頭にウクライナ・バロック様式に改築されたもの。

ヤロスラフ賢公の子どもたちのフレスコ画

身廊南側には、本来ヤロスラフ賢公の息子たちが描かれていたが、19 世紀半ば、大殉教者ヴェーラ、ナジェージダ、リュボーフィ、その母ソフィアに描きかえられた。1934 年の改修時、これがヤロスラフ賢公の娘たちだと誤って解釈され、長らく定説となっていた。ちなみに、ヤロスラフ賢公の娘のうちエリザヴェータ、アンナ、アナスタシアの 3 人は、それぞれノルウェー、フランス、ハンガリーに嫁いだ。

ヤロスラフ賢公の棺

1936 年、この棺から、ヤロスラフ賢公のものと考えられる人骨が見つかり、人類学者 M・M・ゲラシモフがこの骨をもとにヤロスラフの胸像を復元した。

キーフ：キエヴォ・ペチェルシカ大修道院（ペチェルスキー修道院）

11 世紀、ギリシアのアトス山で修道僧となったアントニーが、古キエフにやって来て、ここの洞窟で修行を始めたことに起源をもつ。古キエフ時代の文化的中心であり、11 世紀後半に有名な聖者伝を書いたネストルもここの修道僧であった。

ウスペンシキー（ウスペンスキー）大聖堂

1073～89 年にかけて建造されたといわれている。独ソ戦中、ドイツ軍あるいはソ連軍によって破壊され（今回の訪問のときに見た、大聖堂付近に立てられた説明書きでは、ソ連軍の行為であると記されていた）、その後長らくそのままであったが、2000～01 年に再建された。

トロイツィカ・ナドブラムナ（三位一体）教会

12 世紀初頭に建てられた教会。現在、ペチェルシカ大修道院の正門になっている。

大鐘楼から望むドニプロ川

ドニプロ川は、写真左から右へと流れている。

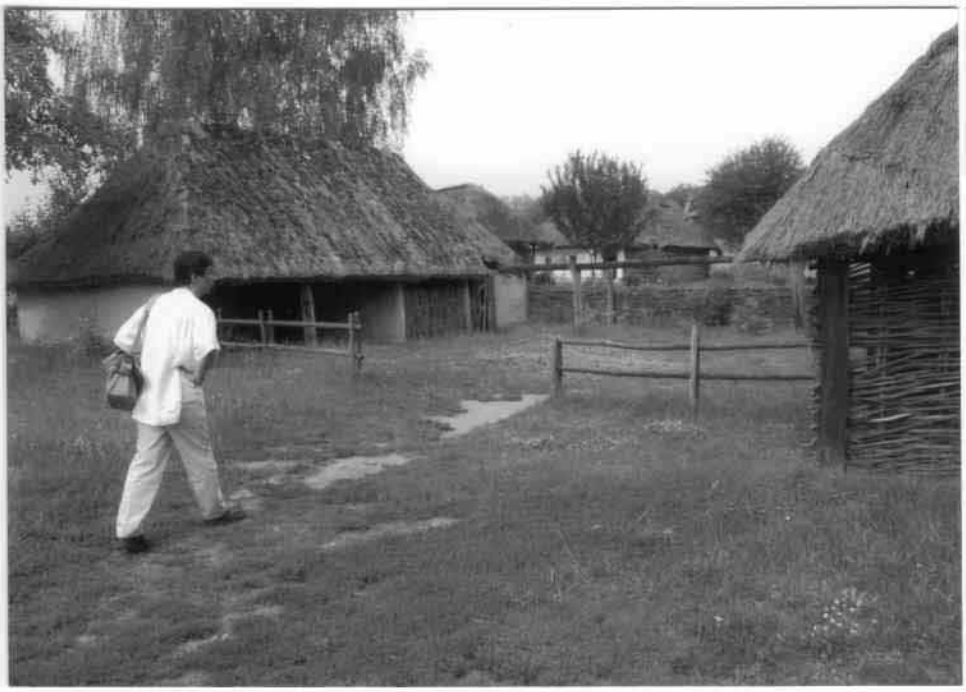
キーフ：その他

独立広場

われわれの訪問の約 4 ヶ月後、「オレンジ革命」（大統領選の投票結果をめぐる問題に端を発した民主化運動）の舞台になった。

黄金の門
1037年に建設されたといわれる、「ヤロスラフのまち」の正門。1982年のキーフ建都1500年に合わせて復元され、現在のような外観になった。

デシャチンナ（デシャチンナヤ、十分の一税）教会跡
996年、ウラジーミル聖公（キエフ公在位 980～1015年）によって建設されたといわれる、ルーシ初の石造教会。



民族建築と風俗の博物館
　ウクライナ各地から集められた 16～20 世紀の建造物と民芸品が展示されている。

ドニプロ川から望むスタロキーフシカ丘

自然史博物館内の考古学関係展示

考古学研究所に所属する展示で、先史時代から中世までの多くの考古学遺物が展示されている。

キリロフシカ（キリロフスカヤ）教会

1140 年頃、チェルニゴフ公フセヴォロド・オリゴヴィチにより同名の修道院が創設された際、この教会も建設された。フセヴォロド公の妻や息子がここに埋葬された。

キリロフシカ教会内のフレスコ画

M・A・ヴルーベリの手による。ヴルーベリ（1856年生まれ、1910年没。1884～89年キーフ在住）は、トレチャコフ美術館（モスクワ）所蔵『座せるデーモン』などの作品で知られる画家。

イスタンブールにて

バックは「コンスタンティノープル」の聖ソフィア大聖堂。